

かめおか霧の芸術祭左官ワークショップ°

2025年02月15日

The-Ninja-Architects

1. 土のはじまりと自然の中での役割

土はどこからくるのでしょうか？土は山や岩が雨や風で少しずつ削られ、それが何百年もかけて細かくなったものが主になって、土の中には小さな生き物や栄養がたくさんあって、植物が育つ大切な場所になっています。田んぼや畑、森の土は生きています。土があるから、私たちの食べ物が育ち、家を作することもできる。まさに「地球の恵み」といえます。



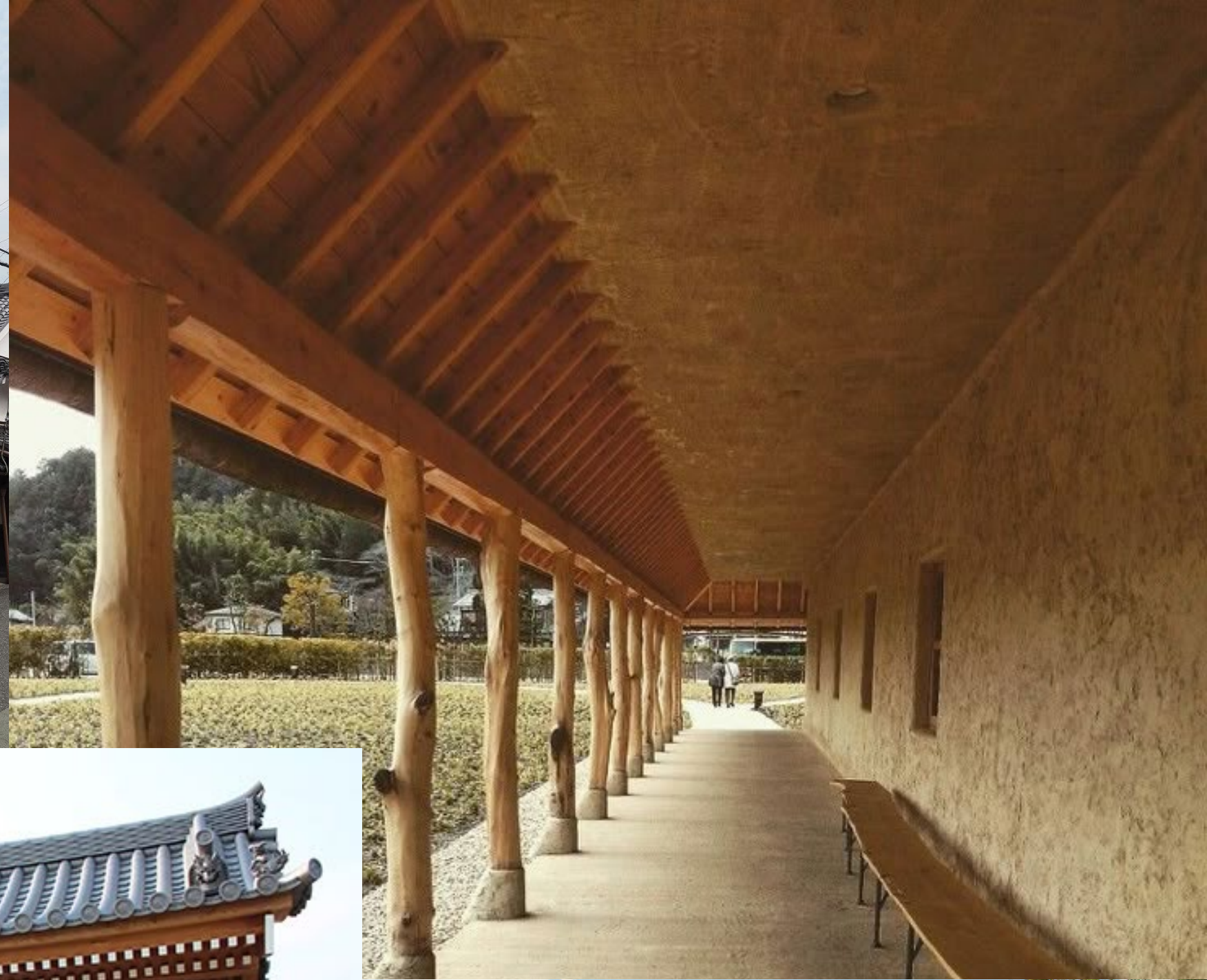
2. 土が家になる。 左官技術の始まり

昔の人たちは、土の化学変化のすごさに気づいて、家を作る材料に使うようになりました。木や竹で組んだ壁に、土を塗ってしっかり固めると、風や雨から守ってくれる丈夫な壁になる。この技術を「左官（さかん）」と呼びます。左官職人さんは、特別な道具を使って、土をなめらかに塗ったり、きれいな模様をつけたりして、家やお城やお寺を作ってきました。



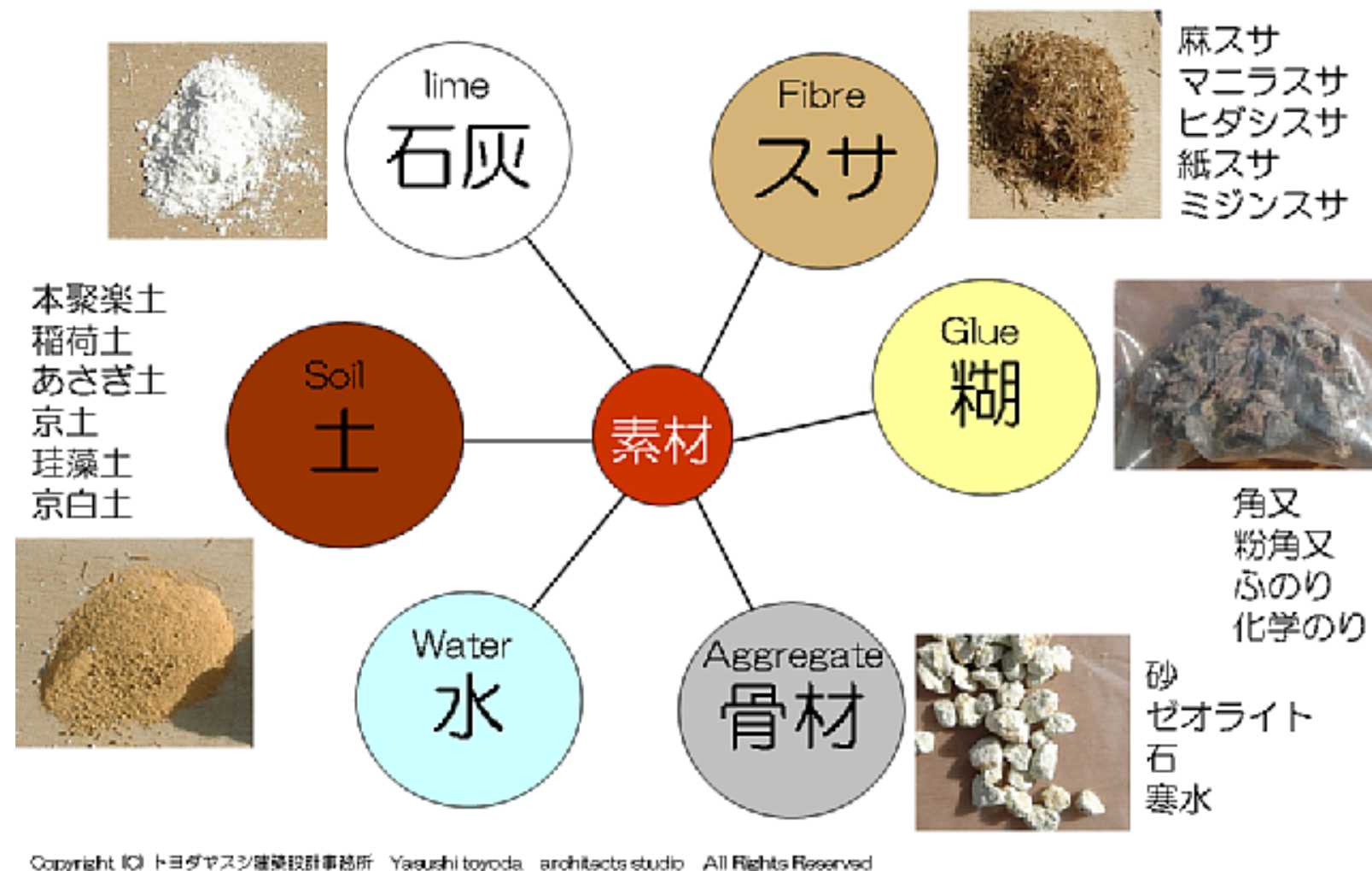
3. 土が支える 日本の家と街なみ

日本の昔ながらの建物には、たくさんの土が使われています。土壁は、夏は涼しく、冬は暖かくしてくれて。さらに、火にも強くて、昔のお城やお寺では火事から守るために土の壁が使われています。町屋やお寺の土壁は、100年以上たっても修理しながら使い続けることができます。自然の力を活かした日本の家づくりは、とてもエコで未来にも役立つ技術なんです。



4. 土の種類と 左官の技法

土にはいろんな種類があります。赤い土、黄色い土、黒い土…どの土を使うかで、左官の仕上がりが変わります。さらに、貝殻の粉や藁（わら）を混ぜると、もっと丈夫になったり、きれいな模様ができたりもします。左官技術は、自然の素材を活かして、アートのように美しいデザインを生み出すことができる素材です。



5. 土に触れてみよう ワークショップ

今日は、実際に土を使って、自分だけの左官アートを作ってみます。好きな色の土を選んで、ヘラや手を使って、ボードに塗ってみよう。スポンジやくしで模様をつけたり、貝殻や小石を飾ったりしよう。乾かしたら、自分だけのアートの完成！



6. 土の未来と再生する建築

みんなが作った作品は、自然の土を使っているから、もし壊れても、また新しく生まれ変わることができます。土壁の建物も、何年もたつと古くなってくるけど、壊してまた新しい土を塗り直すことで、元通りにできます。こうして土は、何度も何度も再利用されながら、未来へと受け継がれていく。これからも、自然を大切にしながら、新しいアイデアで未来の建築やアートを作っていきましょう



S H I R O A T O A R T E X H I B I T I O N

城跡芸術展 2024

稲あゆ美
上野裕二郎
Acoon Hibino
大石早矢香
大村大悟
大矢一成
奥村博美

栗本夏樹
小峰花香
ZENG HUIRU
柞磨祥子
崔石鎬
辻將成
出口鯉太郎

でぐちみつぎ
中山元宗
西野康造
日置結弥
フォックチン
ベリーマキコ
松井利夫

松岡勇樹
森太三
八木良太
安井友幸
山口さとこ
山本和夫
吉田伊佐

主催：
かめおか霧の芸術祭実行委員会
亀岡市

協力：
宗教法人大本
亀岡祭山鉦連合会

什器制作：STUDIO 森森
グラフィック：藤井良平 (goodflat) / 新宮夏樹

鳥の声や羽虫の音、
草木のそよぎに合わせて
鼓動がリズムを取り始める

2024年

10月12日(土) → 27日(日)

開催時間：午前10時～午後4時30分／観覧料：無料*会期中無休
<https://kameoka-kiri.jp/shiroato-art-exhibition/>

かめおか霧の芸術祭
Kameoka Kiri Art Cultivation

文化庁 文部科学省
文化庁 文部科学省
文化庁 文部科学省









